

## 「韓国語研修参加報告書」

京都大学文学部2年 (氏名) 山口莉花

この韓国語研修は、三週間韓国語を勉強し、韓国語の習得とともに韓国の社会・文化を体験し、日本についても発信・発見することを目的としたプログラムです。午前中はほぼ毎日大学で韓国語の授業を受け、午後は韓国や日韓の社会についての講義を受けたり、日本専攻の学生と交流したりしました。

講義の内容は朝鮮戦争についての歴史認識や、在日朝鮮人や、韓国社会のしきたりについての社会学でした。少人数で受けることができたので、いくつも直接質問をしたり、日本の先生も交えて議論をしたりと、非常に充実したものとなりました。

日本専攻の学生は全員、驚くほど日本語に堪能でした。韓国では高校から第三言語を習うそうで、高校でずいぶん喋れるようになった方や、中学時代から独学で勉強して喋れるようになった方など様々でした。日本語でプレゼンをしましたが内容を正確に把握してもらえ、活発に議論も行いました。その後も交流会の中で学生同士たくさん話をし、中でも日本と韓国の食事時のマナーの違いを教えあったのが興味深かったです。

このように韓国では非常に様々な体験をしました。その中で今回私が得た最も大きな成果は、語学を勉強する意欲です。

韓国語の授業には様々な国籍の人がいるので、授業は英語で行われ、クラスメイトとの会話もほとんど英語です。そして同じクラスには、自分より英語が格段に上手い人ばかりでした。その中で会話していて、なかなか言葉が出ずもどかしい場面が多々ありました。そこで自分の英語の能力の低さを改めて痛感し、日本に戻ってからは英語をしっかり勉強しようと心に決めました。

また、授業は会話を中心としており、実用的な語や文を生活の中ですぐ使えるようにすることが目的の構成でした。だから、毎日授業外でも覚えて間もない韓国語を使ってみたり、聞き取れたりする喜びを味わえました。それを通して、新しい言語を勉強するのは楽しいことだと感じられました。それまでは、外国語を無味乾燥な勉強としか捉えられなくなっていたのです。原因は、一年次のドイツ語の授業が、文法ばかりで実際にドイツ語を使う機会がなかったことだと思います。この研修で、外国語をやることの本当の意義を改めて認識できました。私の専攻には、三年次からの研究にロシア語が必要になる可能性があるのですが、ドイツ語で意欲を失ってから語学になかなか手をつけられずにいました。しかし今は、来学期からロシア語を自学する計画を立てています。

また、来年からの交換留学に応募するかどうかはこの研修に参加したことで決定できました。長期間海外に滞在することが不安で申し込みを迷っていたのですが、三週間韓国に滞在してとても良い経験になったので、来年出発の半年から一年の長期留学に応募することにしました。